

## 中学部第\*学年 自立活動学習指導案

日時：令和3年\*月\*日(\*) 第2校時

場所：中学部\*年\*組教室

授業者：T1 町田 美花

T2 \*\* \*\*

### 1 題材名

相手に対して、聞き取りやすい話し方をしよう

### 2 題材について

#### (1) 対象となる生徒の実態

両耳感音性難聴（右耳：89 dB、左耳：75 dB）で、両耳に補聴器を装用している。左耳のほうが聞こえることを自覚しており、聞こえづらい際には左耳を声や音のする方に向けて聞こうとする姿勢がみられる。主なコミュニケーション手段は聴覚口話だが、地域の小学校から本校中学部に入学し、聴覚障害のある教員や同級生と接する中で手話の必要性に気づき、少しずつ手話を覚え始めた。そして、聴覚障害のある教員や同級生に対して、簡単な手話や指文字を意識して使いながら話をするようになった。昨年度の入学当初は、同級生との会話も少なく、なかなか慣れず打ち解けられない様子がみられた。しかし、2学期の後半頃から趣味などを話題に、周囲と雑談ができるようになった。また、手話を少しずつ覚え、相手に合わせて手話をつけながら話をしようとする姿勢がみられるようになった。授業の中では、話し方に気をつけながら自分の意見を伝えようとする姿勢がみられるようになってきたが、いつもと違う雰囲気であったり、不安なときや何かに夢中になったりしているときには聞き取りづらい話し方をすることがみられる。

#### (2) 題材設定の理由

昨年度は聴覚障害について知り、自分の聞こえ方について同級生と話し合い、互いの聞こえ方の違いについて知った。また、自立活動の授業の中で、小学校では自分一人だけが聞こえにくいことで困った経験や嫌な思いをしたことを生徒自ら話すこともあった。このことから、聞こえにくいことや配慮してほしい点について、周囲に伝え理解してもらえた経験が乏しいことや、聴者とのコミュニケーションについて成功体験が少ないことが予想された。また、自分の声が好きではないと話したこともあり、聴覚障害のある自分を受け入れられない部分もあると考えた。

そこで、自分の聞こえ方についても一度見つめ直し、同級生の聞こえ方についてもさらに理解を深めるとともに、聞こえ方は人それぞれであることを前向きに捉え、「必ず相手と目を合わせながら会話をする」など、聞こえにくいことによる強みを見つけてほしい。さらに、聞こえにくい自分を受け入れながら、どのように聴者と関わっていくことが望ましいのかを考え、実践して行ってほしい。

そこで、本題材では、さまざまな聞こえ方があることに触れながら、自分の聴覚障害について肯定できる部分を見つけられるようにしたい。そして、自分がどのように聴者と関わることが必要かを考え、自分も積極的に聴者と関わろうとすることが大切であることに気づき、理解する内容を取り上げる。

(3) 指導目標とリストアップされた項目及び具体的な指導内容

長期目標	自分に必要な情報を求めて、自分から周囲に関わろうとすることができる。 〈2－(3)〉、〈3－(1)〉 〈3－(4)〉、〈6－(5)〉
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や同級生など周囲の人と意欲的に関わることができる。〈3－(1)〉</li> <li>・わからないことがあった時や話が聞き取れなかった時は、自分から聞き直すことができる。〈2－(3)〉</li> <li>・相手に対して、聞き取りやすい話し方をすることができる。〈6－(1)〉</li> </ul>

項目リストアップ	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること。  (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。  (4) 集団への参加の基礎に関すること。			(1) コミュニケーションの基礎能力に関すること。  (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。  (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

指導内容	聴覚障害があるからできないという視点ではなく、どうしたらできるかという視点をもちながら生活できるようにする。	聞き手を意識して、相手が聞き取りやすい話し方ができるようにする。	話し合い活動を通して、聴覚障害のある自分の強みや良いところを見つけられるようにする。
------	--	----------------------------------	--

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、学年の生徒3人の聴力や聞こえ方に違いがあることを踏まえた上で、お互いを認め合いながら話し合いが進むように心がけたい。そこで、相手の話を聞き入れながら、話し合いができる場を授業の中で設けている。また、聴覚障害のある生徒と話すときに意識していることについて学部の教員の声を聞くことで、自分たちへの配慮点に気付くことができるようにする。同様に、同級生とコミュニケーションをとる場で気を付けていく必要があることに気付かせたい。お互いの話し方について話し合う場面では、ワークシートを用いる。初めに話し合いを行い、その後に書く時間を設定することで、話し合いが止まることなくスムーズに進むようにしていく。最後に、改善点を意識しながらそれぞれが話をし、互いに学習の成果を確認することができるようにしたい。

3 指導計画

次	時間	ねらい	指導内容
1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちと聴者の違いについて、自分のこれまでの経験を振り返りながら意見を伝えることができる。</li> <li>・「聞こえないからできない」のではなく、何らかの工夫をしたり、方法を変えたりすることでできるようになることに気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補聴器や人工内耳を装用する自分たちと聴者の違いについて、付箋に書き出す。</li> <li>・自分たちを「できない」ことが多いという視点でみるだけでなく、聞こえないが故の強みもあるという気付きが得られるようにする。</li> <li>・学校生活だけでなく、普段の生活や地域社会との関わりなどについても振り返ることで、困った場面について振り返ることができるようにする。</li> </ul>

2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害のある自分たちは「聞こえない」のではなく、「聞こえるけど聞き取れない」ということが多いことに気づき、その2つの言葉を使い分けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や声は聞こえるが、その内容までは分からないといった経験を振り返りながら、「聞こえる」と「聞き取れる」の違いが分かるようにする。</li> <li>・音声によるコミュニケーションにおいては「聞き取る」ことが重要になることを確認する。</li> </ul>
3	2 (本時は1/2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手とのコミュニケーションを成立させるための必要な配慮について、ポイントを見つけることができる。</li> <li>・自分の話し方について見つめ直し、改善点を見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手にとって聞き取りやすい話し方について知り、自分の話し方と比較する。</li> <li>・自分の話し方を否定的に見るのではなく、どのようにしたらよりよい話し方ができるのかという視点で考えられるようにする。</li> </ul>

#### 4 本時の指導

##### (1)目標

自分の話し方を見直し、相手に対して、聞き取りやすい話し方をしている。

##### (2)教材・教具

電子黒板、ワークシート

##### (3)展開 ※形態の表記は、全体：全、グループ：グ、個別：個

	主な学習活動・内容	教師の手立て ※評価は□で囲む
全 5  5  15	<p>1. 前回までの学習内容を振り返る。</p> <p>2. 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">聞き取りやすい話し方について話し合おう。</div> <p>3. 課題について話し合う。</p> <p>発問① 聞き取りやすい話し方ってどんな話し方？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の授業での話し方について、中学部の先生方がどんなところに気をつけているのかを知る。</li> <li>・話し方のポイントをまとめる。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">T2は、生徒が話の内容を理解できていないときに、個別にフォローを行う。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の話が聞き取りづらく、コミュニケーションが難しいときがあることを確認する。</li> <li>・筆談や話し方など、何らかの配慮をお願いすることを確認する。</li> <li>・「聞き取りやすい」という言葉は、「聞こえる」とは異なることを確認する。</li> <li>・聞き取りやすい話し方について生徒から発言があった場合、発言を認めた上で次の発問につなげられるようにする。</li> <li>・「授業で話をするとき気をつけているところ」について、予め中学部の先生方に書いていただき、その内容を紹介する。</li> <li>・聾学校では、どの教員も全員が分かるような聞き取りやすい話し方を意識していることを確認する。</li> <li>・口形については、コロナ禍におけるマスクの装着についても触れることで、聾学校での配慮について考えられるようにする。</li> </ul>

20	<p>発問② 自分の話し方はどうかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で、互いの話し方について、相手が聞き取りやすいように意識して話ができているところや、そうではないところなど感じることを話し合う。</li> <li>・それぞれ、自分の話し方についての意見をワークシートに記入する。</li> <li>・それぞれが記入したワークシートをもとに、互いの話し方について確認し、改善点を話し合う。その中で、聞き取りやすい話し方を意識して話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が出てこない場合には、相手の声量やスピードなどのポイントについて考えるように伝える。</li> <li>・T2は、話合いの中で出た意見を板書し、後から生徒が見返すことができるようにする。</li> <li>・これから改善することができるという視点をもつことができるように「どうしたらみんなが聞き取りやすくなるかな」などと言葉をかける。</li> <li>・話し方について相手のいいところについても触れられるように、生徒それぞれが授業で発表するときの話し方についても触れる。また、相手を批判するような意見については、「こうしたらもっと話が聞き取りやすくなる」というような肯定的な表現に言い換えさせながら話合いが進むようにする。</li> </ul> <div data-bbox="810 757 1487 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【評価】</b> 自分の話し方を見直し、相手に対して、聞き取りやすい話し方をしている。〈6－(1)〉</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に対する望ましい話し方について、配慮をお願いする自分についてはどうなのかを確認する。また、聞こえにくい自分にとって分かりやすい話し方とは、聴者にとっても聞き取りやすい話し方であることについて確認する。</li> </ul>
5	4. 活動のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴者と関わっていく中で、話し方について配慮をお願いする自分たちも気をつけていく必要があることを確認する。</li> </ul>